

植物

メアカンフスマ

メアカンフスマは、最初の発見地である雌阿寒岳にちなんで名付けられました。たくさんの小さな白い花をつける高山植物で、夜空の数百万の星に似ています。北海道原産で、雌阿寒岳、知床半島沿い、北海道の北西約 1,300 キロ先に広がる千島列島でのみ見られます。

雌阿寒岳では、メアカンフスマは、ハイマツの森の上にそびえる岩だらけの斜面に生え、標高 1,000 メートルから始まって、標高 1,499 メートルの山頂にまで生息しています。高さ 5~15 センチに成長し、6月の雪解け後から、開花します。一般的には、8月まで花が咲き、チョウや他の虫を引き寄せます。5枚のとがった白い花びらと、緑色の葉は、荒涼とした火山の斜面ではひととき目立ち、雌阿寒岳登山のハイライトの1つとなっています。メアカンフスマは、雌阿寒岳と阿寒富士の間にある谷や沢沿いに広がる、息をのむほど美しい花畑でも見られます。

メアカンキンバイ

メアカンキンバイは、最初の発見地である雌阿寒岳にちなんで名付けられた、珍しい高山植物です。キンバイとは、金色の梅という意味で、花の黄色と、梅の花に似た形を表しています。メアカンキンバイは、高さ 3~10 センチに育つ、地表植物の一種です。6月から7月にかけて開花し、阿寒地方、知床、大雪火山群、羊蹄山、北海道の北西約 1,300 キロ先に広がる千島列島のような高山帯で見られます。

茎が長く、頭花は灰緑色の葉の上まで伸びています。この植物を間近で見ると、5枚の花弁のそれぞれに、細い、茎のような基部があるため、花弁間に非常に大きな隙間があります。芽には、3枚の小葉があり、それぞれに3つの歯牙があります。花弁、めしべ、おしべはすべて黄色で、雌阿寒岳の登山コース沿いに鮮やかな色を添えます。